

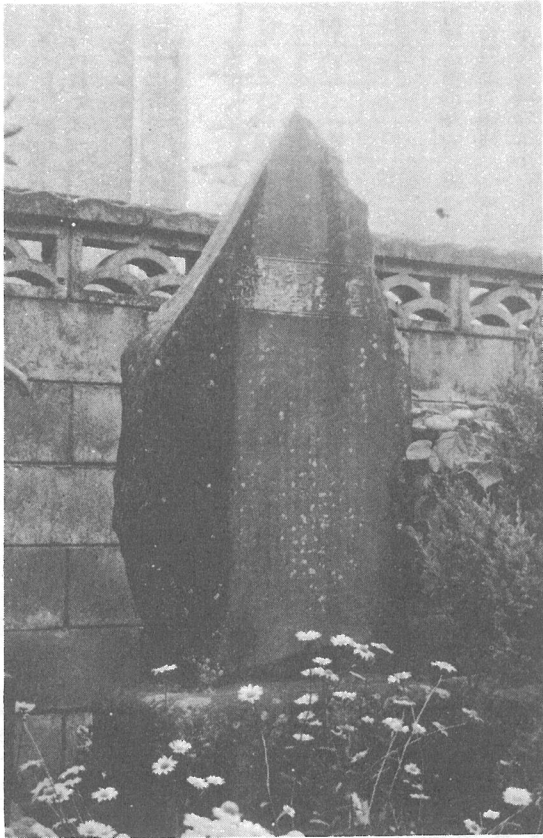
横芝の碑 (その十)

額縁に納まつた報徳碑

横芝小学校の講堂には歴代校長の写真が掲げられています。これは八年程前にPTAの皆さんが寄贈されたものです。この中で二代目佐伯校長の額には一基の碑が納められているのがつきます。当時のPTAの皆さんはいろいろと伝手を求めて遠く九州方面までも問合せや連絡をして顔写真を集めたのですが佐伯校長の分は殆んど手掛りもなく腕を折っていました。その中に「私の父が祖父の代に佐伯という先生の記念碑を観音寺に建てたことがある」という古老の話を耳にしましたので早速同寺を訪れて、その境内でようやく探し当てたのがこの碑なのです。

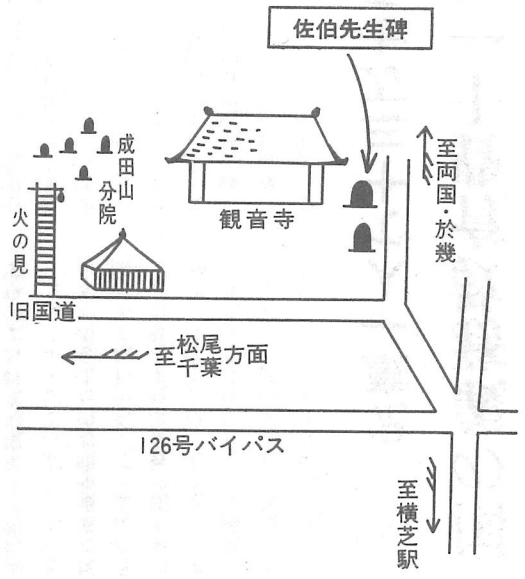
碑文によりますと、先生は佐伯光瀧と呼ばれ、子變または理齋とも称していました。祖父の光詰氏は遠州掛川の藩士でしたが先生は江戸駒込の屋敷で天保十三年九月に生まれています。幼い頃から秀才の誉高くいろいろな先生に教えを受けましたが常に先生を凌ぐ程で

した。明治四年上総松尾の借毛に移り住み、私塾を開いて近郷の子弟育英に勤しんでいましたが学制の発布と共に松尾水深小学校教員を経て明治九年に横芝小学校の訓導として赴任し、後校長を拝命しよく児童生徒の薫陶に精進しておられたのですが、明治十七年三月



僅か四十三才の若さで逝去されました。先生の徳を慕う人々は先生の死を悼み永くその頌徳を称えんと共に後世に伝えようと観音寺の境内に顕彰の碑を建立したというものです。写真はその碑で、題額には佐伯子變先生報徳之記、とあり、又碑文には

「佐伯子變報徳記 駒籠矢部、潤撰 子變謹光瀧佐伯氏号理齋世掛川藩士祖考諱光詰字穆士仕至用人無子女三人乃養目幡藩士洞氏義隣子以爲嗣諱日光謙記之以基季女是実以天保十三年壬寅九月二十一日生子變於江都駒込邸中數歲始終潤譜書既長學我海野先師學書於小島成齋翁學國家於加藤翁千浪子變精敏師逸有効書其所長最善正楷又若別家



幕書不背而均既遷于上総明治四年開私塾於借毛教授書童六年為水深

教員九年転横芝校

教員目移家為訓導

其所皆應誘生徒十七年甲申三月六日

年四十三而於家七日葬于松尾之岡親戚慟哭所識惜娶原田士人由和之女生四男一女長子光給未完嗣家今茲乙酉生徒之承恩者相謀愆之徳建硯於観音寺中原田君來清潤為之記乃揚推而書

明治十八年七月、南総水巻尚童書并題額」と刻まれ台

座には中央に太字で生徒中と横書きされ、右手には「発起人、真行寺武十郎、田子長八」とあり、左側には、世話人「当村真行寺鉄太郎、伊藤徳太郎、田子勝太郎、中村徳三、小川千代吉、内田伊勢吉吉岡イチ」と教子等皆さんの名が刻まれています。世話人の真行寺鉄太郎氏は三代目の校長でその写真には佐伯校長の額と並んで掲げられています。(本稿取材に当り、横芝小学校並に本町観音寺関係等皆さんの御協力をいただきました。)

(給食センター小沢所長寄稿)

